

「わたしたちの体育」を活用した実践事例
～4年生「とび箱」学習のステップアップノートとしての活用～

大山町立大山西小学校 山中 卓

1 はじめに

跳び箱運動は、助走 - 踏み切り - 第1空中局面 - 着手 - 第2空中局面 - 着地という一連の動作をリズムカルに行う運動である。また、跳び箱の高さや踏み切り板の距離を変えたり、新しい技に挑戦したりすることによって楽しさが増す運動である。低学年でのタイヤ遊びや、馬跳びなどの運動遊びは、中学年での跳び箱を使った運動へとつながっていく。

わたしたちの体育は、基礎・基本の習得の段階から培った運動能力の活用の段階まで豊富な運動例が、技術ポイントを明確に紹介されている。本実践では、跳び箱運動の図解やめあてと、自己評価及び友達への評価を一体化させた指導を目指した。自分の運動能力の伸びを目に見える形で評価し更なる意欲向上をめざすために、ステップアップノートとしての役割を持たせ、指導に当たった。

2 指導の実際

(1) 単元計画

時間	1	2～5	6
学習内容	準備・挨拶・準備運動（短縄）		
	◎オリエンテーション ・跳び箱設置のルールを覚える。 ・跳び箱学習の場の設定を知る。 ・きまり、安全面について確認する。 ・わたしたちの体育の使用方法を確認する。 ・第一回目の記録会を全員で行う。	・活動①の跳び箱運動をする。 「横とびこし」「開脚とび」「台上前転」の3つの練習の場をローテーションで回していく。 ・活動②の跳び箱運動をする。 「大きな開脚とび」「大きな台上前転」「かかえこみ跳び」から、グループでの課題を選択し練習する。	◎記録会 ・記録会に向けて、グループごとに練習をする。 ・記録会を行う。 ・跳び箱運動の振り返りをする。
	整理体操・片づけ・あいさつ		

(2) 指導の工夫

○グループ学習

36名の児童を、6人1組の6グループに分けた。グループ編成は、第一回目の学習での様子を元に、技能レベルの高い児童が均等に配置されるよう工夫した。グループでの教え合いを奨励し、苦手な友達に助言を行う場合には、わたしたちの体育に書いてある図解、及びめあてを参考にするように指導した。

○場の設定

児童のグループ数である6つの跳び箱を用意し、1つの技で7分、ローテーションで3つの技を練習するように時間設定をした。また、それとは別に1つ跳び箱を用意し、そこを「教師の技チェック」の場とした。ここで教師に認められれば、わたしたちの体育に書き込んだ技のチェックは○から◎、そして花丸へとステップアップしていく。こうして毎授業ミニテストのように技にチャレンジし、結果をわたしたちの体育に記入する機会を保障することで、各班が意欲を持って練習に挑む姿が見られた。



3 おわりに

児童本人が、自分の学びのステップアップをいつでも確認できるようにすることで、「より高いレベルを目指そう」という意識が生まれ、それにより授業の質を児童自身が高めていく様子が見られた。また、教師が学習の評価をする際にも、このステップアップメモは大いに役に立った。準備、片づけに時間のかかる跳び箱学習を、より充実させる方法をこれからも模索していきたい。